

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	湯梨浜町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	湯梨浜町文化遺産活用計画	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第3次湯梨浜町総合計画（平成28年策定）を踏まえ、地域の文化遺産を次世代に確実に継承していくためには、文化財の保護・保存・管理にとどまらず、文化遺産を活用していくことが求められる。文化遺産の次世代への継承・発展や、文化遺産を活用して地域活性化を推進するため、下記の取組を実施する。また、実施計画の期間中は、下記の取組を通じて、地域全体で文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指す。</p> <p>（第3次湯梨浜町総合計画：別紙①参照）</p> <p>1. シンポジウム・講演会等の開催による魅力発信事業 (1) シンポジウム・講演会・地域学習の開催 シンポジウムや講演会を開催し、湯梨浜町内の文化遺産の価値を多くの人に知ってもらい、地域の宝としての認識を養うことで郷土愛を育み、保存と活用を図る。 (2) 現地見学会や地区座談会などを開催し、身近にある文化遺産について気付き興味を持ち、保存への意識を持っていただくとともに、地域活性化の推進を図る。</p> <p>2. 次世代（小中学生）への文化遺産継承事業 (1) 民俗芸能の魅力発信事業 地元で伝わる民俗芸能を紹介する機会を創出する。 (2) 学校と連携した青少年の伝統芸能体験事業 湯梨浜町内の小中学校と連携し、子どもたちが伝統芸能に触れる機会を創出する。また、学校や地域の祭りなどで披露する。 (3) 文化財保護団体の支援事業 歴史研究団体及び美系民族保存団体の活動を支援し、文化遺産の次世代への継承・発展を図る。</p>			
6 実施体制			
<p>湯梨浜町が本実施計画に係る全体の企画・調整、各補助事業に係る指導等を行う。主な担当課、役割は下記のとおりとする。</p> <p>教育委員会事務局生涯学習・人権推進課、社会教育文化振興係：補助事業における文化財の取扱い等に関する指導及び調整を行う。</p> <p>「東郷池周辺の文化遺産を活用した地域活性化事業」実行委員会（委員長：信原和裕） 構成団体：湯梨浜町歴史研究会連絡会（長瀬歴史研究会・橋津歴史塾・東郷歴史研究会・とまりふるさと伝承クラブ・郷土史の資料を読む会）、湯梨浜町無形民俗文化財連絡協議会（東郷浪人踊保存会・泊貝がら節保存会・宇野三ツ星盆踊り保存会・橋津ふるさとの文化を守る会、泊大名行列保存会、茶町踊り保存会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 千円	平成31年度申請額： 848 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

1. 想定される効果

湯梨浜町内には多種多様な文化遺産が豊富にあり、謎めいた史跡も多数ある。これら貴重な文化遺産は町の宝であり、今後、これらを守り伝えていくためには、その価値と歴史を知ってもらうことが重要です。事業を計画的に実施することで、湯梨浜町民の歴史に対する関心が高まる。その結果、地域の文化遺産（文化財）の保存・継承の必要性和重要性が認識され、保存しながら有効活用しようとする機運も醸成される。

官民一体となった事業の成功経験は、今後の文化財行政における官民の連携・協力体制に有効に寄与するものである。住民と行政が地域に根付いた文化遺産の情報を共有することは、一体となって調査・保存に取り組むことができ、継承に必要な事項の明確化や的確な取り組みのサポートができるようになる。

観光面では、歴史ブーム（お城ブーム）が追い風となり、県内外はもとより外国からの観光客の増加も期待され、地元温泉旅館の宿泊客数の増加も見込まれる。また、湯梨浜町の山間部には小さな過疎集落があり、観光客などが訪れる機会を創出することで地域の活性化が期待される

2. 効果の測定

- (1) シンポジウム・歴史講座への参加者数・来場者数の把握
- (2) 町主催の生涯学習活動や歴史講座等の参加者の把握
- (3) 小・中学生の地域学習における取組状況の把握
- (4) 新聞やテレビ等による報道状況
- (5) 町関係部局が発表する観光及び経済に関する統計の分析

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	十萬寺所在城跡及び羽衣石城跡の測量調査、現地調査及び現地見学会。現地自然道の整備。町内に多く所在する戦国時代に築かれた城跡の調査を行う。
事業概要：	伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図に描かれている今なお残る歴史文化遺産の調査研究と現地見学会。絵図に描かれている「倭文神社」において、国史跡「一宮経塚」出土、国宝「銅鏡筒」のレプリカの展示（現在、湯梨浜町中央公民館に展示）と講演会。
事業概要：	重要文化財「尾崎家住宅」の適切な保存修理と名勝「尾崎氏庭園」の環境整備を着実にを行う。また、「尾崎家」は「山陰柴犬」の保存にも努めており、山陰柴犬の鑑賞会を開催している。地元住民とも連携し、住宅・庭園の一般公開など活用を行う。

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

湯梨浜町には多くの歴史文化遺産が存在し縄文時代から近世に至るまで多岐にわたることから、その保存と活用は最重要業務でもある。本事業の実施により関係団体・機関及び地域一体となって文化遺産の保存・活用の機運を醸成し、平成31年度から文化遺産の調査を行い、国や県、有識者の指導・助言をいただきながら、平成35年度を目途に歴史文化基本構想の策定を目指す。

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	湯梨浜町 教育委員会事務局 生涯学習・人権推進課
-----------------	--------------------------

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	地域の文化遺産を活用した取組数（本事業の取組を除く）（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標1:	歴史文化遺産に関係した講座・講演会等			関連事業:	①②③	
目標値1:	【現状値】平成30年度10回 ⇒ 【目標値】平成33年度15回					
設定根拠1:	平成30年度の講座・講演会等の実施回数を10回としていることから、それ以上の開催とする。					
進捗状況1:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成年度	平成年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
回	回	回	回	回	回	
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	その他（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標2:	湯梨浜町への観光客の入込客数			関連事業:	①②③	
目標値2:	【現状値】平成30年度147,291人 ⇒ 【目標値】平成33年度155,296人					
設定根拠2:	平成29年(155,296人)に対し平成30年(147,291人)は8,005人の減少であった。平成29年の数値を目標値として設定。					
進捗状況2:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成年度	平成年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分3:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分3:	その他（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標3:	講演会や講座、地域学習への参加			関連事業:	①②③	
目標値3:	【現状値】平成30年度847人 ⇒ 【目標値】平成33年度1,038人					
設定根拠3:	平成29年(691人)に対し平成30年(847人)は156人増加した。増加率は1.2257であり、平成30年の数値に増加率を加えた数値を目標値として設定。					
進捗状況3:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成年度	平成年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
人	人	人	人	人	人	

